

稲穂・金山地区



▲地域安全マップの作成のため危険な場所を探します

【安全で住みよいまちづくり住民大会】住民、町内会、交通安全指導関係者などが集まり、防火・防犯に関する講演会などの住民大会を開催し、防犯対策や災害時の相互協力など、安心して暮らせるまちづくりに努めています。

【地域安全マップの作成】子どもたち自身が、「どのような場所で犯罪が起こりやすいか」などを調べて、自ら危険を回避する感覚を身に付けることを目的に、地域安全マップを作成しています。

星置地区



▲「星」型の反射板キーホルダー

【ネットワークと地域体制づくりの実施】町内会に「住民協力員」を配置し、高齢者などの生活課題・災害時の避難支援などについて、地域内の関係機関・団体などと連帯して解決するためのネットワークと地域体制づくりを構築しています。

【交通安全活動】手稲北小学校、星置東小学校の新1年生に「星」型の反射板キーホルダーを配布しています。これを身に付けることで、夜間の交通事故などから身を守ることに役立っています。

手稲区キャラクターを活用した安全・安心なまちづくり

手稲区では、平成22年度手稲区実施プランに基づき、手稲区マスコットキャラクター「ていぬ」を活用して地域防犯啓発を活性化し、防犯意識の向上に努めています。

<青色回転灯搭載車両>

地域の青色回転灯搭載車両に「ていぬ」が印刷されたパトロール用ステッカーを張り付けていただき、防犯啓発をより活性化します。

パトロールをします



<日本郵便手稲支店>

郵便配達などの際に使用するバイクや軽自動車に「ていぬ」が印刷された「見守りネットワーク」ステッカーを張り付けていただき、防犯啓発をより活性化します。

見守りをします



災害時の助け合い（災害時要援護者避難支援対策）

自助と地域（近隣）の共助が大切

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などに閉じ込められた約35,000人のうち、27,100人（約8割）は家族や近隣住民に、7,900人（約2割）は警察・消防などに救出されました。

大規模災害時においては、地域による素早い救助・救護・救援活動が大切だということが分かります。

行政としての支援（公助）

- 各地域における支え合いの仕組みづくりの支援
- 避難場所の運営や支援
- 災害時のライフラインの復旧作業

支え合いの仕組みづくり

- 高齢者や障がいのある方を助けるために
- 地域には、災害時に自分や家族だけでは避難が難しく、周りの方の支援を必要としている方がいます。そうした方を支えていく地域ぐるみの仕組みづくりが市内各地で始まっています。

【災害時要援護者避難支援対策】

町内会などが中心となり

- ①災害時に「支援を必要としている人」と「支援をする人」を募集
- ②町内会などは両者を互いに組み合わせ、災害時には一緒に避難する支援体制をつくる



このページに関してのお問い合わせ先は
災害時の助け合いに関しては

総務企画課地域安全担当
保健福祉課活動推進担当

☎681-2400内線 (289)
☎681-2400内線 (327)